

健康サポート機能付き デジタル温湿度計

◆製品特長

本製品は、日常生活における熱中症予防指針と、風邪やインフルエンザの予防のための湿度による3段階快適レベルを表示します。

○熱中症予防指針

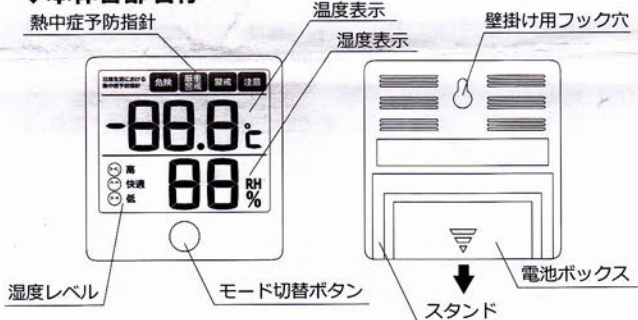
日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.1に基づいて WBGT 値を算出し熱中症の予防指針を表示します。これは、あくまで日常生活上での基準であって、労働や運動の場における熱中症予防の基準には当てはまりません。

○風邪やインフルエンザ予防のお手伝い

次は厚生労働省「インフルエンザの基礎知識」より抜粋です。「室内では加湿器などを使って適度な湿度(50～60%)を保つとよいでしょう。」

本製品では湿度レベルモードに切り替えると、湿度50～60%だと“快適”表示、それより高いと“高”表示、それより低いと“低”表示をします。

◆本体各部名称



◆ご使用方法

1. 電池蓋を上図の矢印の方向にスライドして開けて単4形乾電池を2個セットしてください。
2. 電池蓋を閉じて、測定したい場所に設置してください。
3. モード切り替えボタンを押す毎に、「熱中症予防モード」と「湿度レベルモード」に切り替わります。

※熱中症予防モード・・・WBGT 値を算出し熱中症の予防指針を表示します。

※湿度レベルモード・・・湿度50～60%だと“快適”表示、それより高いと“高”表示、それより低いと“低”表示をします。

※ご使用にあたっての注意

- ・本製品は屋内専用です。屋外では使用しないでください。
- ・直射日光の当たらないところでご使用ください。
- ・製品内部にセンサーがあるため、設置直後は正しく測定できない場合があります。設置後、約12時間経過してから読み取ってください。
- ・特に湿度は同じ室内でも大きく異なります。水まわりや観葉植物の近く、冷暖房の風が直性当たるところやテレビなど熱を持つ機器の近くは他の場所と湿度が大きく異なることがあります。
- ・極端に高い湿度の環境下においた後は、センサーに水滴が残ればしばらく高い湿度を表示する場合があります。
- ・温度41℃以上は「Hi」、-6℃以下は「Lo」を表示します。
- ・湿度96%以上は「Hi」、19%以下は「Lo」を表示します。

◆使用上の注意

- 本製品は家庭用です。工業用および業務用として使用しないでください。
- 本製品を落とすなど強い衝撃を与えないでください。
- 浴室内では使用しないでください。
- 本製品を廃棄する際は、電池を取り外しお住まいの地方自治体のルールに従って廃棄してください。

<電池について>

- 万一、電池の液が目に入ったときは、すぐに多量のきれいな水で洗い流し、医師の診察・治療を受けてください。また、皮膚や衣服についたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 電池の極性(+・-)を確認して正しくセットしてください。
- 電池交換の際は、必ず新品の電池と交換してください。

日常生活における熱中症予防指針について

本製品は4段階で日常生活における熱中症予防指針を算出し、表示します。算出方法は、日本気象学会

「日常生活における熱中症予防指針」に基づきWBGT値を推定し、右の表の通り表示します。

この予防指針はあくまで目安であり、個人差があります。

特に次に該当する方は注意が必要です。

- ・乳児、幼児、未就学児
- ・高齢者
- ・基礎疾患のある人
- ・体調不良の人
- ・肥満の人

本製品を熱中症の予防にお役立ちいただくと幸いです。

日常生活における熱中症予防指針

温度基準 (WBGT 値)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも熱中症を発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28℃以上31℃未満)	すべての生活活動で おこる危険性	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25℃以上28℃未満)	中等度以上の生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。